

養成する人材像

細分化された特定の専門分野の知識だけではなく、幅広い知識と教養と柔軟な思考力に基づく判断力が重要となり、複雑で多面性を持った現代社会の問題に対し、高い公共性と倫理性を保持しつつ、積極的に社会を支え改善していく態度を持って課題解決に当たることのできる人材の養成

I. アクティブ・ラーニング

一方的な知識伝達型講義を聴くという受動的学修を乗り越える意味での能動的な学修（書く・話す・発表する等の活動への関与とそこで生じる認知プロセスの外化を伴うもの）

ICT技術による反転授業の推進

- ・時間外学修時間の増加
- ・双方向授業の拡大

ルーブリック評価の推進

- ・知識偏重の成績評価を見直し

ラーニングコモンズ、TA等の環境整備

- ・ラーニングコモンズ等の積極利用推進
- ・TAの育成、適正配置

実現

カリキュラム

授業科目

事後学習

授業

知識習得に加えて、
コンピテンシー系の能力、態度・志向性の修得

事前学習

II. 学修成果の可視化

- ・継続的な「学習行動調査・学習到達度調査」を実施
- ・学生ポートフォリオシステムを既に導入・運用

学生ポートフォリオの運用推進

- ・半期毎の学修成果目標の入力と自己評価

学生調査の継続実施と課題解決

- ・学修行動調査、学修到達度調査の継続実施

IRの推進

- ・学内におけるPDCA体制の強化

実施体制図

【学士課程教育組織】

高等教育推進機構

現代システム科学域

工 学 域

生命環境科学域

地域保健学域

事務局（教育推進課）

【全学委員会組織】

学 長

教育研究会議

高等教育推進機構長

教育運営会議

（部局長、教育運営委員長）

F Dセンター長

教育改革専門委員会

（学域、高等教育推進機構FD委員）

（新設）

アクティブラーニング
専門部会（WG）

（新設）

学修成果可視化
専門部会（WG）

外部評価委員会